

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

20日目【2000年5月3日 午後】

全37日間

今日の旅も辛かった〈敦煌～柳園～ハミ〉後半

しかし今回は、列車内の雰囲気違っていた。どの車掌も殺気立っていて（理由は後で分かった）、誰も相手にしてくれなかった。「ここからは乗れない。お前の席は硬座だ！」と強く言われる始末。渋々硬座の車両から乗ると、そこは、多くの人で大混雑。東京の山手線の通勤ラッシュ時を思わせるような人混みであった。

通路から身動き出来ず、大きな荷物とリュックを持っている私は、辛さ・苦しさ・絶望感、それら全てを超越した、もうどうにでもなれという境地で、ただ茫然と立ち尽くしていた。

発車して、少し気持ちが落ち着くと、このまま5時間ここに立っていることに耐えられないと思い、重い大きな荷物を抱え、人の波をかき分け、大声で「エクスキューズ・ミー」（何故か英語）と突進して行った。乗客のみんな、「何この変な人！」っていう目で見えていたが、もうそんなこと気にも留めなかった。



酒泉の屋台で会った人々（4月29日）＊5月3日の写真が無かったので過去の写真を掲載しました。

住職レター

ある門徒さんの亡くなられたお連れ合い様（女性）は、ダリアが大好きだったとのこと。「妻は、夏に生まれたからか、ダリアが好きだった」「ダリアを探して、花屋さんを駆け回ったことがある」と、そんな思い出話をしてくれました。

私も、ダリアが大好きです。寺の事務所に掲げたカレンダー、八月はダリアのイラストで、その美しく可愛いダリアに癒されております。

今年のお盆、ダリアが大好きだったお連れ合い様の初盆でした。その方が本堂にお参りに来られる時、タイミング良く、ダリアを尊前にお供えしたいと思い、いつもお世話になっている花屋さんにご相談していました。ダリアは、花のもちが悪く、しかもこの厳しい猛暑で、お盆前に市場にあるか分からないと言われました。諦めかけていた時、花屋さんから電話があり、ダリア入荷との嬉しい連絡。かなり無理して、ダリアを仕入れて下さったようです。お盆に、ダリアが間に合いました。

ダリアの花言葉は、『華麗』『優雅』『気品』。善教寺本堂が、華麗に優雅な雰囲気に包まれました。

ダリアは、江戸時代（一八四二年）に、オランダ人によってもたらされ、花姿がボタンに似ているため天竺牡丹（テンジクボタン）と名付けられたとのこと。

本堂の尊前に供えられたダリアを見て、「妻も喜んでいました」と、とても喜んで下さいました。

より一層、私はダリアが好きになりました。



二尊前に供えたダリア（善教寺本堂）

Buddhist ruins exploration record at silk road

シルクロード仏教遺跡探訪記

20日目【2000年5月3日午後】

全37日間

今日の旅も辛かった〈敦煌〜柳園〜ハミ〉後半

この車両と食堂車を抜ければ、軟座のシートにたどり着ける。そこへ行けばなんとかかなと思っていたが、非情にも「席はない、硬座に戻れ」の一言。そこを何とか食い下がり、筆談と会話集を交えて話していると、通りかかった英語の話せる乗客が通訳をしてくれた。

聞くと5月の初旬は、中国でも長期休暇となり、それで今日は列車が満員なんだと教えてくれた。残念ながら納得するしかなく、硬座の車両に帰ろうとしたら、先ほど通訳してくれた乗客が、「僕の寝台車両のベッドの横だったら座れるから来るか？」と言ってくれた。ここでもまた涙が出るほど嬉しくなった。異国の地で、こうして親切にしてくれた方への感謝の気持ちは、一生忘れず心に刻んでおこうと思った。

夜遅くハミのホテルにチェックインし、シャワーを浴びた。お湯が低温で出も悪い、トイレの水も漏れている、部屋の電気は切れている。こんなことは、どうでもよく感じられた。



通訳して隣に座らせてくれた乗客



ハミの駅舎

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

九月 十六日(水曜日)

午後一時半

* 毎月十六日に本堂において勤めております。

「護持会報恩講」(善教寺本堂)

十月 三十一日(土曜日)

午前十時

午後一時半

午後三時半

講師 広幡康祐師(呉市安浦町信楽寺)

「報恩講」(善教寺本堂)

十二月 二 日(水曜日)

午前十時

午後一時半

午後三時半

講師 徳正俊平師(三原市大和町徳正寺)

* お接待当番 井ノ邑地区



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp



ホームページURL